

小学校教科用図書調査研究資料

音 楽

教 育 出 版
教 育 芸 術 社

令和5年度

中高・飯水地区小学校教科用図書採択研究協議会

種目（音楽）

<div style="text-align: right;">発行者名</div> <div style="text-align: left;">採択基準</div>	教育出版（音楽のおくりもの）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素が明示され、音楽の楽しさや美しさに触れながら音楽活動を行うことによって、実感を伴いながら理解が深まるよう構成が工夫されている。 ・各学年の発達段階に応じて多様な教材、活動が系統的に配置されており、児童が主体的に取り組めるよう工夫されている。
2 児童の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等	<ul style="list-style-type: none"> （1）全学年を通した領域・分野ごとの系統性に基づいて教材が配置され、発達段階に応じた無理のないステップアップや学力の定着が図れるように、配慮されている。 （2）各ページに音楽を形づくっている要素が「音楽のもと」として示され、児童の学びの手掛かりとなるよう配慮されている。 （3）体を動かす学習活動や「まなびナビ」の掲載、他領域との関連など、音楽的な見方・考え方が働くように工夫されている。 （4）情景が思い浮かぶような折込みの写真や、児童側から見た楽器の写真など、児童が自ら学習に向かえるよう紙面が工夫されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価	<ul style="list-style-type: none"> （1）音楽活動を楽しみながら、無理なく資質・能力を育成できるように、全学年を通した領域・分野の系統性に基づいて題材、教材が配列されている。 （2）「まなびナビ」に示されている学習活動を手掛かりにして、音楽的な見方・考え方を働かせながら、学びを深めていけるよう工夫されている。 （3）歌唱教材には、見開きの拡大写真等が掲載され、鑑賞教材には楽曲の構造や演奏団体の構成が図や写真で示されるなど、学びを深める配慮がされている。 （4）多くの伝統的な楽器や民謡、諸外国の音楽などを通して、多様な文化にふれることができる。 （5）「まなびリンク」では二次元コードを通じて、音声や動画、写真、ワークシートなどの良質なデジタルコンテンツを活用することができ、個に応じて学習を進められるように工夫がされている。 （6）「音楽のもと」や「まなびナビ」が示されることにより、児童が見通しをもって主体的・対話的に学習が進められるように配慮されている。 （7）巻末には『「音楽のもと」まとめ』や音楽を表すいろいろな言葉が掲載され、音楽を形づくっている要素を観点とした評価や振り返りができるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と世界の音楽が多く取り上げられたり「ショートタイムラーニング」では他教科と関連した学習が紹介されたりするなど、音楽と生活の結びつきが意識できるよう工夫されている。 ・振り返りのページでは学習したことに関する資料が充実している。また全校で楽しく演奏できるように、全ての学年の教科書に全校合唱の歌を掲載している。

種目（音楽）

<p>採択基準</p>	<p>発行者名 教育芸術社（小学生の音楽）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<p>・音楽を形づくっている要素が右下インデックスで示され、それを生かして無理なく表現や鑑賞の活動が進められるように、題材が系統的に構成されている。 ・「何を目標に」「どのように活動して」「何を学ぶのか」が一目で分かるような紙面構成になっていて、見通しをもって学習に取り組めるように工夫されている。</p>
<p>2 児童の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性</p> <p>（本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等）</p>	<p>（1）各学年の目標を実現するために、題材名、題材のねらい、学習目標、活動文、学習のまとめが見やすく構成されている。 （2）音楽づくりのワークシートではICTを活用して選んだ音をすぐに聞くことができ、自分で作った音がイメージに合っているのかどうか判断できる工夫がされている。 （3）巻頭の学習マップでは、学習活動ごとに内容が示されており、その学年で何を学ぶのか見通しが持てるようになっている。 （4）興味関心を引き出したり、思考が深まるきっかけになったりするような吹き出しやヒントが盛り込まれ、協働的な学びにつながるよう工夫されている。 （5）文字を配置する時は、背景の絵や写真に合わせて読みやすくなるように工夫がされている。またUDフォントを使い視覚的にとらえやすいように配慮されている。</p>
<p>3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い</p> <p>（「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価）</p>	<p>（1）「そだてよう」「思いだそう」のマークを手掛かりに、繰り返しや積み重ねの学習を行いやすくなっており、基礎的な能力の定着、伸長が確実に図れるように配慮されている。 （2）音楽づくりでは、デジタルコンテンツによって、技能のレベルに左右されることなく試行錯誤を繰り返しながら音楽をつくることができ、プログラミング的思考を育成する配慮がなされている。 （3）考える・見つける・歌う・演奏する・つくるのマークを手掛かりに、子どもたちが主体的に学習を進めていけるように工夫されている。 （4）我が国や郷土の音楽を学ぶ題材が、学年の段階に応じて系統的、発展的に配置されている。また他教科との関連も図られており、多様な文化に触れることができる。 （5）二次元コードから使えるカードや写真、動画、音源等の教材が、個々の児童の理解を深める手助けとなっている。 （6）キャラクターの吹き出しのヒントにより、対話的に学習が進められるように配慮されている。 （7）題材の最後には、学習のまとめが具体的に示され、評価の観点が明確になるように工夫されている。</p>
<p>4 全体的な特色</p>	<p>・いくつかの教材や学習活動を組み合わせることによって、題材の目標が達成されるように構成されている。 ・教科横断的な学習を促したり、SDGsやキャリア教育につながる視点を示したりすることにより、音楽で学んだことを自分の人生や社会に生かすことができるよう工夫されている。</p>